

Chapter 1

ビジョンの基本的な考え方

_ まちづくりのキーワード

- ・まちづくりのキーワード
- ・まちなかの暮らしをつくる要素
- ・車中心から人中心のウォークアブルなまちなかへ
- ・まちなかと周辺地域のつながり

_ ビジョンの基本方針

- ・ビジョンの基本方針
- ・ビジョンにおけるまちなかの定義
- ・ビジョンの位置付け

_ 対話重視の策定プロセス

- ・対話重視の策定プロセス
- ・市民・事業者等のみなさまとの対話

まちづくりのキーワード

ほしい暮らしを描き、 森林とともに育むまちなか

-ほしい未来にめぐり逢えるまちの実現に向けて-

飯能市のまちなかのエリアで目指すのは、まちなかのどこにいても自然や緑を感じられることで、どこか心地よく、ほっとできる森林文化とともに、“人のつながり”を感じられる暮らしを育むことです。気軽に言葉を交わしたり、お気に入りの場所や自分の居場所とすることができるところがある、そのような豊かな暮らしは、わたしたち一人一人が一步踏み出してチャレンジすることによって作り出すことができ、その蓄積がまちなかに豊かなシーンを生み出していきます。

まちなかの暮らしをつくる要素



暮らしをつくる要素は、単に「住む」という行為だけでなく、「遊ぶ」「学ぶ」「働く」など多様な要素が重なり合うことで、そのまちに「暮らす」意味や愛着が湧いてきます。

「森林文化都市 はんのう」を体現するようなまちなかの暮らしにおいても、まちなかで遊び・学び・働くだけでなく、「祭」や「農」に触れる機会があったり、「憩」があったりすることで、まちなかの暮らしが豊かになっていきます。

車中心から人中心のウォーカブルなまちなかへ

まちなかの主役は、車から人へ

これからのまちなかは、車の安全で円滑な通行のためのまちなかから、人々の多様なニーズへの対応に応じていくための人を中心としたまちなかへ変化しようとしています。飯能市にとって親しみのある北欧諸国では、人中心のまちづくりが1960年代から進んでいます。日本においても、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を目指していく「ウォーカブルなまちづくり」に関する政策が掲げられ、全国各地で人中心のまちなかを生み出すプログラムが進行しています。

デンマーク・コペンハーゲンにおける 「人中心」のまちづくり

1950年代に車社会が進み、
排ガス増加による都市環境悪化



↓
1962年にメインストリート
「ストロイエ」の歩行空間化社会実験

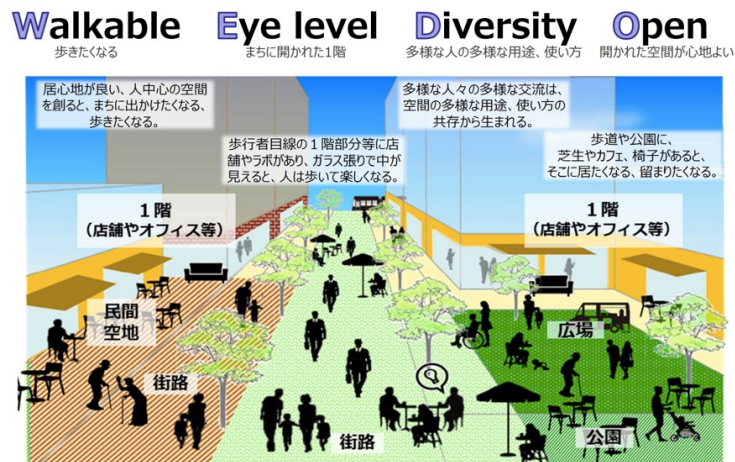


↓
1965年に常設化

↓
1968年に歩行者専用の舗装に整備

国土交通省が公表している

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」のイメージ



出典：国土交通省HPより

まちなかと周辺地域のつながり

まちなかの暮らしと周辺地域・沿線地域とをつなぐ

まちなかがつながること、周辺の住宅地や生産地、観光地とつながること、さらには飯能市の近隣地域や沿線地域とつながることで、人々の出会い・交流を通じた新たな共創の創出や人中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力が向上し、市内外の多様な人材や関係人口をさらにひきつける好循環が生まれます。

1 まちなかをつなぐ

駅・公共施設・まちなかエリアをつなぐ

2 住宅地 とつなぐ

まちなか周辺の住宅地とコンパクトにつなぐ

3 生産地 とつなぐ

周辺の農林業・製造業などの生産地とつなぐ

4 観光地 とつなぐ

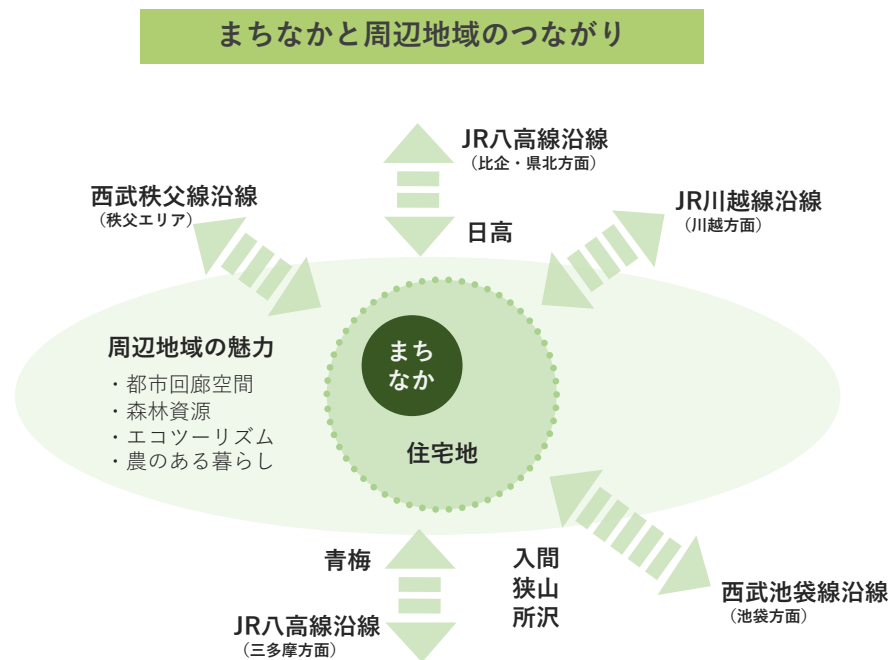
森林や都市回廊空間*などの観光空間とつなぐ

5 近隣地域 とつなぐ

日高・入間・狭山・所沢・青梅などの近隣地域とつなぐ

6 沿線地域 とつなぐ

西武線・JR線の沿線のまちとまちをつなぐ



イメージ図

※都市回廊空間：市内の観光スポットなど交流拠点と市内回遊を連携させ、観光客等の交流動線を確保しようとする考え方。中心市街地を囲み、メッツア、飯能河原・天覧山周辺、トーベ・ヤンソンあけぼの子どもの森公園などが「回廊」のようなイメージでつながる交流空間を言う。

ビジョンの基本方針

1) まちに関わる私たちのみちしるべ

このビジョンは、1日のうち少しでも飯能のまちなかに関わりを持つ人たちも含め、まちなかに暮らし、まちなかに関わる私たち自身が、それぞれの立場から主体的にまちなかに関わり、10年、20年先を見据え、まちなかの豊かな暮らしを描き、育む「みちしるべ」です。

2) 暮らしの選択肢を市民・事業者・行政等で生み出す

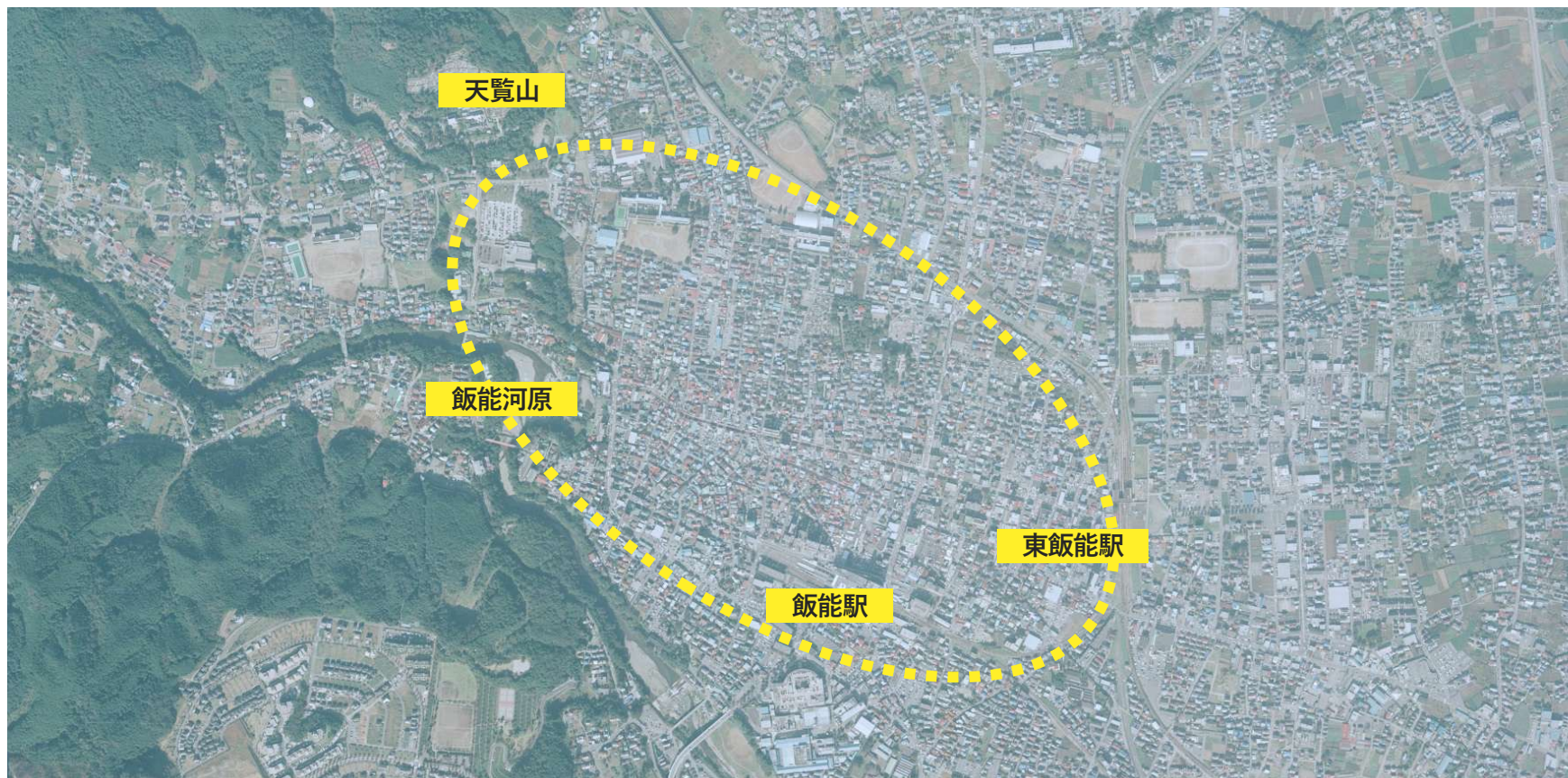
まちなかに暮らし、まちなかに関わるのは、住む人、働く人、通う人、あるいは市民、事業者、行政等と、様々な属性の方々です。まちなかの豊かな暮らしには、それぞれが、ほしい暮らしを実現するための機会、場所、仲間などの選択肢をつくり上げていくことが大切です。

3) 想像とアクションを楽しみビジョンを育む

ビジョンに沿って、ほしい暮らしを想像してみましょう。そして共感する仲間とともに、それぞれの得意なことを活かして、すぐにできる小さなことから、時間のかかる大きなことも、実際にアクションを起こしながら、ほしい暮らしを少しずつ実現していきましょう。私たち自身のアクションにより生まれたまちなかの新しい暮らしを楽しみながら、さらにビジョンを育てていきましょう。

ビジョンにおけるまちなかの定義

天覧山・飯能河原・飯能駅・東飯能駅に囲まれたエリアを、このビジョンが対象とする「まちなか」とします。
水や緑が感じられ、人が集まり出会う、「森林文化都市 はんのう」の中心的な役割を担います。

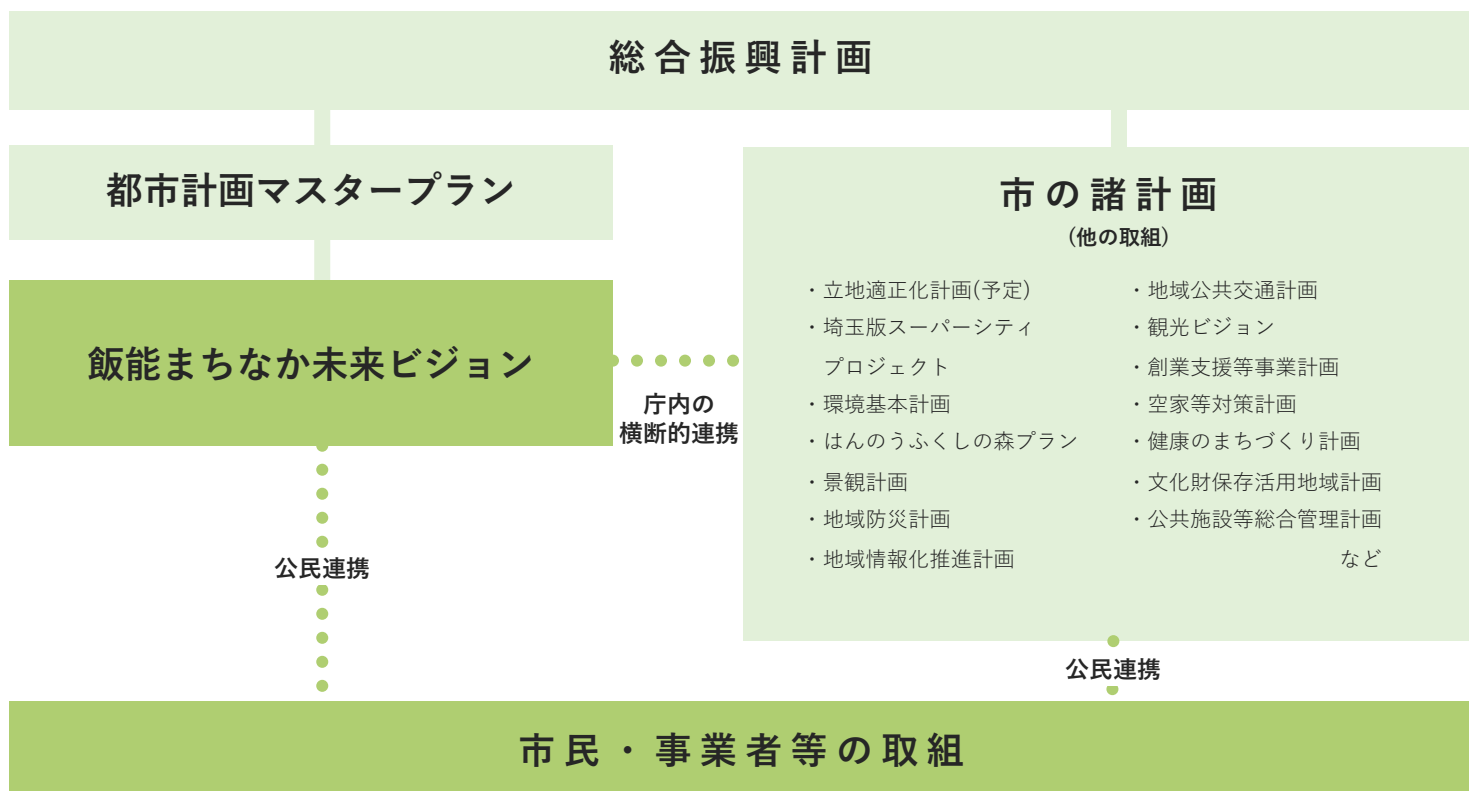


下图：国土地理院航空写真

ビジョンの位置付け

総合振興計画に基づく各種計画等を横断・橋渡しするビジョン

このビジョンは、総合振興計画に掲げた内容の具現化に向けて、飯能市のまちなかエリアに関わる各種計画等を横断し、分野を越えて橋渡しする取組のよりどころとします。



対話重視の策定プロセス

2022年度(R4)

庁内横断的な組織として「飯能市中心市街地まちづくりビジョン策定プロジェクトチーム」を設置し、ビジョンの策定に向けた様々な調査検討を行い、翌年度に実施する市民等との対話やさらなる検討の基礎となる検討報告書をまとめました。また、3月26日には、今後のまちづくりを市民、事業者、行政等が連携して進めるために「飯能市中心市街地まちづくりシンポジウム」を開催しました。

2023年度(R5)

前年度の検討報告書を基礎資料とし、対象エリアに係る調査、ワークショップの開催、中学生アンケート調査、街頭調査、企業との意見交換会、福祉事業所・団体ヒアリング等を行い、ビジョン案を取りまとめました。

パブリックコメントを経て、「飯能まちなか未来ビジョン」を策定しました。

2022年度(R4)

飯能市中心市街地まちづくりビジョン 策定プロジェクトチーム設置

- ・プロジェクトチーム会議(全9回)

飯能市中心市街地まちづくりビジョン検討報告書

- ・シンポジウム開催(3/26)

2023年度(R5)

- ・対象エリアに係る調査
- ・ワークショップ開催(全4回、参加者35名)
- ・中学生アンケート調査(回答者126名)
- ・街頭調査(全5箇所、回答者405名)
- ・企業との意見交換会(10社)
- ・福祉事業所・団体ヒアリング(4団体)
- ・庁内関係部署への施策調査
- ・パブリックコメント



飯能まちなか未来ビジョン

市民・事業者等のみなさまとの対話

ビジョンの検討・策定にあたっては、市民・事業者等のみなさまに多くの時間を割いていただき、ワークショップ・ヒアリング・アンケートなどの方法により様々な声を集め、意見の把握に努めました。

市民ワークショップ

全4回

35人

企業との意見交換会

10社

中学生アンケート

4校

126人

福祉事業所・団体
ヒアリング

4団体

街頭調査

5箇所

405人



ご協力いただきありがとうございました！